

県民の安心の
拠り所となる
病院であること

K o h a r u b i y o r i
VOL. 59

こはるびより

愛媛県立中央病院広報誌「小春日和」



令和5年度は、22名の研修医が医師として
大きく羽ばたくための一步を当院より踏み出します。
末永くよろしくお願ひいたします。



Index

- P1 1年次研修医集合写真
- P2 院長挨拶
- P3 診療科紹介「新生児内科」
- P4 ドクターズカルテ、研修医紹介
- P5 病院のお仕事 感染制御部
- P6 新人看護師集合写真
Baby Friendly Hospital (赤ちゃんにやさしい病院)
認定から15年を迎えて
- P7 転入・転出医師 (2023.3.16 ~ 2023.5.31)
- P8 連携医療機関紹介 ~第30回~

ご自由にお持ち帰り下さい

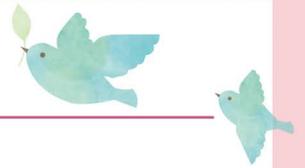
【発行】愛媛県立中央病院 松山市春日町83番地
TEL:089-947-1111 2023年5月31日発行




愛媛県立中央病院



院長挨拶



愛媛県立中央病院 院長 中西 徳彦

この度、菅政治前院長の後任として院長を拝命致しました中西徳彦(なかにし のりひこ)と申します。平成3年(1991年)4月に愛媛県立中央病院に入職し、今年で33年目に入ります。診療科としては呼吸器内科医として勤務しています。

さて、当院は現在地に新築移転して今年の5月でちょうど10年の節目を迎えます。「県民の安心の拠り所となる病院であること」という基本理念のもと、標準的で良質な医療を提供してまいりました。当院は2,000人以上の様々な職種の職員から成る巨大な組織です。それだけ多くの職員が、入院病棟では皆様が快適に過ごし安心して治療を受けられるように、外来ではできるだけ効率よく診療できるように、日々の仕事の中で工夫しながら仕事にあたっています。職員の仕事ぶりに私は誇りを持っており、おかげさまで患者満足度調査におきましても、全国の同規模の病院の中でも上位に位置しています。

当院のこの地域での使命としては、重症の患者さん、救急の患者さんを安全により多く診させていただくということです。そのために各診療科が連携して、さらに看護部、薬剤部、検査部、放射線部、リハビリテーション部などがそれぞれのプロフェッショナルリズムのもとに、協力して診療にあたります。

先進的医療として、ロボット支援手術、がんゲノム医療、経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)といった最新の分野においても実績を積んでおりますし、今後も取り組んでまいります。

もう一つの当院の使命として教育病院としての役割があります。研修医、専攻医といった若手医師のみならず、医学生、看護学生の教育にも関わっています。今後の愛媛県、日本の医療を支える若者たちを温かく見守っていただきたいと思います。

2020年に始まった新型コロナウイルス感染症は、県民の皆様の生活に多大な影響を及ぼしたと思いますが、医療現場も同様です。当院でも手術制限、一部の病床休止など診療制限を行い、皆様にご苦労、ご心配をおかけしました。2023年5月から、感染症法上の扱いが2類から5類になりほっとされている方もいらっしゃるかと思いますが、だからといって感染者がいなくなるわけではありません。外出、旅行などの制限も緩和されてくると思いますが、一人一人の感染予防に対する意識はより求められてくると思います。病院内では高齢の方、免疫力の低下した方が多くいらっしゃいます。そのため、患者さんのみではなく面会の方、外来に付き添ってこられる家族の方なども引き続き、マスク着用をお願いします。

我々が提供する医療が、今後も発展し続けるように努力してまいります。今後とも、ご支援をよろしくお願いいたします。



診療科紹介 新生児内科



当科は2023年4月から、新たに丸山医師、井門医師、青井医師を加えた新たな体制で新生児専用救急車「2代目 あいあい号」を活用しながら、24時間・365日愛媛県の周産期医療を支えています。

現在、「愛媛県内のどこで生まれても安心」というシステムが愛媛県に構築されつつあります。その中で、当院の総合周産期母子医療センター新生児内科部門の役割はきわめて大きく、その責任を日々感じながら、「歩み入る者に安らぎを、去り行く人に幸せを」という理念のもと、日々の診療にあたっています。

新生児内科は、早産児、出生時の合併症や先天性異常がある新生児、低出生体重児、呼吸器不全・心臓疾患・感染症・代謝異常など重症化する可能性がある疾患を持つ新生児を診療対象としています。また、出生前や分娩時の異常、母体感染症等による影響を受けた新生児も診療の対象となります。

診療を行っている場所はNICU (NEONATAL INTENSIVE CARE UNIT、新生児集中治療室) と呼ばれています。最近ではテレビや漫画などでも取り上げられるようになり、世の中の認知度も上がってきているようです。NICUとは重症な疾患を持つ新生児を治療するための特別な部屋です。NICUには、高度な医療機器や専門的なスタッフが配置されており、出生直後から新生児専門の治療と管理ができる特別な場所です。

我々はこのような場所で、懸命に生きようとする命と日々向き合っています。



▲新生児専用救急車あいあい号 (ドクターカー)



▲NICUでは、検査やメンバーでの議論を行い、細心の注意を払って新生児の全身管理をしています

小児科の河邊美香と申します。愛媛県内子町の出身です。2007年に愛媛大学を卒業後、2年間の臨床研修を経て、愛媛大学小児科に入局しました。2021年5月より当院で診療をしています。専門は、運動・知能・感覚・行動あるいは言葉の遅れや障害を持つ子どもの診断や治療、指導を行うことで、現在も勉強中です。また小児科医として子どもの病気全般を診ますが、病気ではなくても子育ての相談に応じますので、気になることは気軽にご相談いただければと思います。

プライベートでは2人の子育て中です。週末は息子の野球を応援に行ったり娘と工作をしたりして過ごします。家族以外にもたくさんの人に支えてもらっています。感謝して、子育ても仕事も続けていきたいと思っています。



▲2023年度小児科のメンバー（後列左から2番目）



▲今年の誕生日ケーキ

当院の研修医を紹介します

2年次研修医 どい 土居 ゆうき 優希医師

Resident

仕事以外の過ごし方を教えてください。

基本的に週末は家でゆっくりすることが多いのですが、昨年度は連休や夏季休暇のタイミングで旅行に行ったり、スノボに初挑戦したりすることができました。東京旅行ではWBCで活躍した大谷翔平選手を生で見ることができ、充実して過ごすことができたと思います。

日頃気を付けていることは何ですか？

健康面には気を遣うようにしています。大学までは部活動で運動をしていたのですが、引退してからは運動する機会が少なくなっていたため、最近、ジムに通い始めました。仕事と休息のバランスを取りながら、運動習慣を身に付けていければと思っています。

今後の目標は何ですか？

研修医2年目ということで、1年目の後輩たちから頼られる場面が増えてくると思います。昨年は上の先生方に多くの場面でお力添えをいただいたので、今年はそのような先輩方のようになれるように頑張っていきたいです。



日々
勉強中です！



▲初挑戦のスノーボードでの一枚（手前）

病院のお仕事 感染制御部



感染制御部は、患者さん、職員を感染症から守るため医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師、事務職など多職種のメンバーで活動しています。院内感染対策を担うICTと感染症の患者さんの治療をサポートするASTが実務を担当しています。

ICT (院内感染対策チーム)

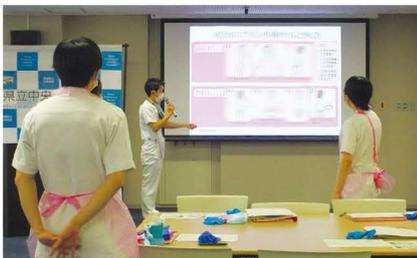
病院内で感染症の原因となる病原体が拡がらないよう、システムづくりや教育を行います。定期的に病院内を回り、感染症の発生状況や感染対策の実施状況を確認し、院内感染を予防するための対策を実施します。

AST (抗菌薬適正使用支援チーム)

入院患者さんの感染症は細菌感染が原因であることが多く、治療には抗菌薬が使用されます。重症な感染症や治療が難渋している感染症の患者さんについて、原因を特定し、適切な抗菌薬の投与につながるよう主治医に提案しています。

〈活動の様子〉

職員研修



▲新人看護師への研修の様子

微生物検査室の様子



▲微生物検査の情報は、随時ICT/ASTメンバーに共有されます



5 類になって変わる事・変わらない事

新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日より、感染症法上の位置付けが5類に変更となりました。しかし、高齢者や基礎疾患がある方が出入りする病院にとって、感染力が非常に強く、院内感染やクラスターのリスクが高い、注意すべきウイルスであることに変わりはありません。引き続き、患者さんや来院される方には、院内でのマスク着用をお願いしておりますので、ご理解ご協力の程よろしくお願いたします。一方で、厳しく制限しておりました面会につきましては、制限を一部緩和しています。今後は、日常生活でも病院でもウイルスとうまく付き合っていくことが大切になります。基本的な感染対策は継続しつつも過剰にならないよう、根拠に基づいた対応を心がけていきます。





4月から、当院で患者さんの看護にあたっていらっしゃる新人看護師です。

ぬくもりのある質の高い看護を提供するために尽力いたしますので、末永くよろしくお願いいたします。



BFH

Baby Friendly Hospital (赤ちゃんにやさしい病院) 認定から15年を迎えて

アドバンス助産師 黒田 法子

当院が「赤ちゃんにやさしい病院」として一般社団法人日本母乳の会に認定されたのは、2008年のことです。1990年当時の産科医師が、周産期センター開設に伴い、新生児室を持たない、母子同室にするという方針を打ち立て、糖水や人工乳を飲ませながら母子同室を開始しました。数年後、岡山県で開催された母乳シンポジウムで母乳の良さを学んだ助産師たちが、「ミルクを足すのをやめよう、母子同室にして、30分以内の早期授乳と頻回授乳をすれば、母乳で育てられる」と力説し、手探りで大変な思いをしながらケアの改革を進めていきました。紆余曲折ありましたが、2008年、2回目の挑戦でBFHに認定されました。当時は、新生児内科の医師が2週間健診で赤ちゃんを診察すること、東洋医学研究所が併設されており、鍼灸師さんが妊産婦さんを施術することは、全国でも少なく、恵まれた環境と羨ましがられました。また、NICUに母乳が届く量が日本一と褒められたこともありました。その当時の産科医師・新生児科医師・助産師・看護師・鍼灸師等、多職種連携が素晴らしかったことを物語っていると思います。

人間の赤ちゃんは「生理的早産」で生まれてくるため、哺乳類の中で最も育児に手がかかります。母乳育児の本質であるスキンシップや視線を合わせるなどの愛着形成や心の豊かさは、目に見えないものですが、人として真の人間形成に欠かせない大切なものです。母に抱かれ、視線を合わせて

母乳を飲む赤ちゃんを想像すると微笑ましいと感じます。何らかの理由で授乳ができなくても、我が子に思いを寄せながら搾乳したり、抱いて視線を合わせて搾乳や人工乳を飲ませたりする行為も母乳育児といえます。

多様化した価値観、妊産婦の高齢化、出生数の減少、孤立した子育て、地域のつながりの希薄化、父親の育児参加困難など、時代は変化しています。それに伴い、産後ケア・父親の育児休暇の取得促進・不妊治療の助成金など厚生労働省も様々な制度に取り組んでいます。私たち助産師も変化に対応しながら、すべての母子が健やかに幸せに過ごせるよう母乳育児を支援し続けていきたいと思っています。

母乳育児でお困りのことがあれば、何でも構いませんので助産師に気軽に相談していただければと思います。



▲パブロ・ピカソ
「母と子」(認定証)



▲「母乳育児成功のための10カ条」



転入・転出医師 (2023.3.16~2023.5.31)

▶ 転入

所属	氏名	専門
救急科	日野 壮周	専攻医
麻酔科	菊池 幸太郎	麻酔一般、成人心臓麻酔
麻酔科	相原 法昌	麻酔一般
麻酔科	中西 智紀	専攻医
麻酔科	池田 彩夏	専攻医
産婦人科	大木 悠司	産婦人科一般
産婦人科	井上 翔太	産婦人科一般
産婦人科	城戸 香乃	専攻医
産婦人科	伊藤 恭	専攻医
新生児内科	丸山 なつき	新生児集中治療
新生児内科	井門 未来等	新生児集中治療
新生児内科	青井 秀人	専攻医
小児科	友松 佐和	小児血液・腫瘍、小児一般
小児科	竹本 隼	専攻医
腎臓内科	高橋 謙作	腎疾患全般、血液浄化療法
泌尿器科	角陸 文哉	泌尿器一般
泌尿器科	市原 興基	泌尿器一般
泌尿器科	松村 正文	腎移植、内視鏡手術、排尿障害、尿路腫瘍
泌尿器科	信森 祥太	専攻医
消化器内科	壺内 栄治	消化器疾患(特に消化管疾患)
消化器内科	兼光 梢	消化器疾患(特に肝疾患・肝癌)
消化器内科	村上 大晟	消化器疾患
消化器内科	福本 真惟	専攻医
消化器内科	松岡 海南	専攻医
消化器内科	松田 拓也	専攻医
消化器内科	中谷 康輔	専攻医
消化器外科	高田 厚史	消化器外科全般
消化器外科	宇都宮 健	消化器外科全般
消化器外科	五葉 海	消化器外科全般
消化器外科	石村 菜穂	専攻医
血液内科	森 悠記	専攻医
血液内科	肥山 隆一郎	専攻医
放射線科	牧田 憲二	放射線治療全般、高精度放射線治療
放射線科	高門 政嘉	画像診断全般
放射線科	高橋 宣貴	専攻医
放射線科	大原 健太郎	専攻医
脳神経内科	大坪 治喜	脳卒中、神経難病
脳神経外科	村山 健太郎	専攻医
循環器内科	黒河 司	循環器全般
整形外科	中須賀 允紀	整形外科一般、脊椎外科
整形外科	今井 麻央	専攻医
眼科	坂井 大五	白内障、眼科一般
皮膚科	黒尾 優太	皮膚疾患全般
皮膚科	岩田 麻里	専攻医
病理診断科	住田 智志	肝胆膵病理

▶ 転出

所属	氏名
院長	菅 政治
副院長	原田 雅光
センター長	石田 也寸志
センター長	定本 靖司
病理診断科	前田 智治
麻酔科	五藤 凌志
麻酔科	田中 聖也
産婦人科	井上 奈美
産婦人科	丹下 景子
新生児内科	村尾 紀久子
新生児内科	吉松 佳祐
新生児内科	伊藤 智子
小児科	河上 早苗
腎臓内科	垣尾 勇樹
泌尿器科	宗宮 快
泌尿器科	中西 茂雄
泌尿器科	安宅 祐一郎
消化器内科	福西 芳子
消化器内科	植木 秀太郎
消化器内科	吉野 武晃
消化器内科	加藤 雅也
消化器内科	加藤 佳夏子
消化器内科	須賀 義文
消化器内科	大濱 日出子
消化器外科	疋田 貴大
消化器外科	松木 ひかり
消化器外科	石川 大地
消化器外科	加洲 範明
呼吸器内科	相原 健人
感染症内科	上田 茉世
感染症内科	西野 雄貴
血液内科	永野 智浩
放射線科	横井 敬弘
放射線科	瀧本 綾鹿
放射線科	赤坂 匠
脳神経外科	松本 調
循環器内科	細川 沙生
整形外科	樋野 正典
整形外科	山岡 慎大朗
眼科	河内 さゆり
形成外科	川浪 和子
皮膚科	佐々木 千晃



連携医療機関紹介 ～第30回～

みかんの花クリニック糖尿病・内分泌・代謝内科

- 所在地 松山市藤原町617-13
- TEL 089-993-8725 ■FAX 089-993-8726
- 診療科目 内科・糖尿病内科・内分泌代謝内科・老年内科
- 外来診療時間 休診日 日曜(第1・3・5)・祝日

	月	火	水	木	金	土	日
9:00～12:30 (受付は 8:45～12:00)	○	○	○	○	○	○	△
14:30～17:30 (受付は 13:45～17:00)	○	○	○	○	○	×	×
17:30～20:30 (受付は ～20:00)	×	○	○	×	×	×	×

【病院の概要】 2021年5月に松山市藤原町の国道56号線沿い(テレビ愛媛北隣)に開院しました。糖尿病・内分泌・代謝疾患の専門クリニックとして、糖尿病や脂質異常症、高尿酸血症、肥満症などの生活習慣病やバセドウ病、橋本病などの内分泌疾患を中心に診療しています。

【病院の特徴】 定期的に通院される患者さんのため予約優先制になっています。受付から検査、問診、診察、会計へとスムーズに流れる動線で、待ち時間のストレスを感じにくい構造です。糖尿病・甲状腺疾患の診療に必要な検査機器が備わっており、殆どの検査結果について当日に説明を受けることができます。患者さんが治療の負担を感じるここのない医療を提供したいと考えています。



医療法人 矢野産婦人科

- 所在地 松山市昭和町72-1
- TEL 089-921-6507 ■FAX 089-945-7369
- 診療科目 産科・婦人科
- 外来診療時間 休診日 金曜午後・日曜・祝日

		月	火	水	木	金	土	日
妊婦・ 婦人科 外来	9:00～12:30	○	○	○	○	○	○	×
	15:00～17:00	○	○	△	○	×	△	×
	14:00～16:00	△	△	○	△	×	○	×
不妊・ 不育外来	9:30～12:30	○	○	○	○	○	○	×
	15:00～17:00	○	○	×	○	×	×	×

【病院の概要・特徴】 当院は1962(昭和37)年に開設され、「お産」を主に扱う医院として地域の皆様と共に歩んでまいりました。1996(平成8)年よりリニューアルを行い、高度生殖医療や内視鏡手術を行う「不妊治療」、あるいは3D/4D超音波、胎児ドック、無痛分娩を取り入れた「産科医療」を先進的に行っています。患者さんに優しい利便性を考えた外来システムを採用して、カード利用、院外処方、オンライン診療など時代に即応しながら「女性」をトータルサポートします。「子ども」を授かることは、人生において最も輝かしい瞬間です。この大切な時を共有させていただくことが私たちの喜びです。「命が芽吹く場所」として、皆様に喜んでいただけるクリニックを目指しております。



当院は、2010年10月29日に「地域医療支援病院」の承認を受けています。このコーナーでは、紹介・逆紹介によって連携している医療機関を随時ご紹介させていただきます。(紹介順序につきましては、順不同ですのでご了承ください。)

